

人文論叢

三重大学人文学部文化学科研究紀要

第 20 号

目 次

論説

- アフリカ文学と Oral Literature (1)
— Mazisi Kunene, *Emperor Shaka the Great* 赤岩 隆 (1 ~ 14)
- 現代農村家族研究の視角 石阪 督規 (15 ~ 28)
- ドイツ語の副詞文におけるモダリティについて
— コーパスによる分析の試み — 井口 靖 (29 ~ 43)
- 身近な酸性雨被害? 三重大学構内におけるコンクリートつららについて (短報)
..... 宇都宮陽二郎 (45 ~ 54)
- 日英語の比較をめぐって (その 1 : 序説の 1) 宇納 進一 (55 ~ 68)
- グリム童話と『日本の昔ばなし』の比較
— 昔話に登場する小人たち — 太田 伸広 (69 ~ 95)
- 初期新高ドイツ語・日本語小辞典作成の試み—ひな型の作成— 工藤 康弘 (97 ~ 111)
- 大清律輯註考釈 (五) 谷井 俊仁 (113 ~ 126)
- ベルリーナー・アンサンブルの
『モリエールのドン・ジュアン』について 友永輝比古 (127 ~ 131)
- 人と生き物がつくりだす関係の諸側面
— フィリピン・カオハガン島の事例 — 野中健一・石川菜央・宮村春菜 (133 ~ 143)
- 《訳語類解》《同文類解》《蒙語類解》の漢語見出し語の異同について
— 司訳院類解辞書中の漢語について (その 2) — 福田 和展 (145 ~ 159)
- 南宋画院の詩書画 — 三絶の視点から — 藤田 伸也 (161 ~ 172)
- 制度体の理論 村上 直樹 (173 ~ 191)
- 梅川文男研究 (3)
— 戦前の部落解放運動とプロレタリア文学 — 尾西 康充 (一 ~ 八)
- 近世の宇治・山田における被差別民禁忌について 塚本 明 (九 ~ 三)
- 中尾本『おくの細道』の用字特性 (上) 濱 森太郎 (三 ~ 七)
- 額田王の「宇治の都の借廬」詠について 廣岡 義隆 (八 ~ 一五)
- 王安石の詩における唐詩の受容について 湯浅 陽子 (一六 ~ 二六)
- 研究ノート
- 対話的談話へのセンタリング理論の応用にかかわる諸問題について 吉田 悦子 (193 ~ 202)
- 『人類の薄明』の文献的調査 (独文) 宇京 早苗 (203 ~ 220)

三重大学人文学部

2 0 0 3